

人権啓発DVD一覧

2025年 2 月現在



No	題名・タイトル	時間	製作年	内容
1	ヒューマンライツウインド	DVD	2005	エフエム中九州による人権啓発ラジオ番組「ヒューマンライツウインド」の内容を収録
2	部落の歴史（明治から現代） 代化が存続させた差別	27分	2007	「部落差別をやめよう」とか「部落に対する偏見を無くそう」とかスローガンを主張するだけでは、部落差別はなくなるのではないのでしょうか。部落の近くに住み、部落という存在をよく知っている人も、あるいは、部落が近くになくて殆ど知らない人も、両者とも「なぜ、部落という地域があり、なぜ差別されたきたか」が腑に落ちない限り、現代にも根強く部落差別を解消する意識が育まれないと思います。 同対法の期限が切れ、同和行政に対する問題点も指摘されている現在こそ、「では、なぜ部落が差別されているのか」ということを問いかけ、考えるビデオの意味があるのではないかと思って、制作をすすめました。
3	めぐみ	25分	2008	1977年11月15日朝、いつものように学校へ出かけた、当時13歳、中学1年生の女の子が、夕方、学校からの帰宅途中に突然姿を消しました。横田さんご一家の平和だった日々は、その瞬間から一変し、あらゆる事態を想像しながら、無事を祈り、帰ってこない娘めぐみさんを捜し続けることになりました。その実態が〈北朝鮮による拉致事件〉という途方もないものとは思ひもしないで……。それから30年ー。怒りや悲しみに包まれながらも、めぐみさんのご両親はめぐみさんの生存を信じ、めぐみさんを取り戻すための果てしない闘いの日々が続いているのです。その凛々しくも強く懸命な姿は多くの人の共感を呼び、日本政府だけでなく、多くの国を動かすまでになりました。この映画では、その様子が克明に描かれています。

4	ほんとの空	36分	2012	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これらに共通する根っこの部分は、誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」である。誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解している。その一方で、自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するが、それ以外のことは他人事のように感じたりする。また、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかず、他者を排除したり傷つけたりしがちである。誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとしてとらえ、日常の行動につなげていくようにと訴える。
5	あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権	30分	2014	性・セクシュアリティはとても多様です。しかし、それをしっかり理解している人は多くなく、性的マイノリティの方々の多くが生きづらさを感じています。誰もがありのまま受け入れられ、自分らしく生きることができる社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この教材は、性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めることを目的としています。（法務省ホームページより）
6	その人権問題わたしならどうする？ 家庭編	24分		家庭の中での人権問題、「男女の役割」「ドメスティック・バイオレンス」「こどものいじめ」「インターネットいじめ」「高齢者虐待」「子ども虐待」について、もしも登場人物のような立場になったら、自分はどう行動するかを考える、視聴者参加型の人権学習映像集。
7	未来を拓く5つの扉	46分	2014	～全国中学生人権作文コンテスト入賞作品朗読集～ 全国中学生人権作文コンテストでは、次代を担う中学生が、身の周りで起きたいろいろな出来事や自分の体験などから、人権について考えています。このビデオでは、入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介します。中学生が作文の中でつぶやいている言葉に、あなたも耳を傾けてみてください。それが、きっと、新しい明日への一歩につながっていくでしょう。

8	あなたに伝えたいこと	36分	2014	同和問題は、地域改善対策の結果、生活環境などハード面の改善は進んだが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残されている。また、インターネットには、利便性ととともに、差別的な書き込みやネット依存など陰の部分もある。この物語の主人公は、結婚話を発端に、恋人や友人、家族などとの関わりから、同和問題が身近な問題であることを知る。ネット上の情報に左右されることなく人とふれあい、お互いを正しく知ることが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝える。
9	ここから歩き始める	34分	2015	日本における平均寿命の大幅な伸びや、少子化などを背景として、社会の高齢化が急速に進んでいる。それに伴い、認知症高齢者も大きな社会問題になっている。高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考えることは、これからの私たちの大きな課題である。この作品は、「認知症を共に生きる」をテーマに、高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点から捉える。認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤ときずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考える
10	部落の歴史（中世～江戸時代）差別の源流を探る	28分	2018	部落差別は江戸時代の身分制度が原因ではなく、中世から差別意識が続いてきたことが分かってきました。中世以降なぜ部落が差別されるようになったかを検証し、差別の本質を考え、現代の差別と向き合う姿勢を問います。部落の歴史(明治～現代) 開放令により制度として部落はなくなりましたが、差別意識は解消されず、急速な近代化と資本主義の発展の中、被差別部落は持続しました。貧困や格差といった今日的な問題を、近代の部落問題は孕んでいるのです。

11	君が、いるから	33分	2018	この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して、新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描いています。子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人との関わり支えあいながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現をめざす内容となっています。
12	ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～	34分	2020	ハンセン病問題に関する理解を深め、偏見や差別のない社会の実現について考えるための人権啓発動画。隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録
13	ミナマタ	115分	2020	1971年、アメリカの写真家W・ユージン・スミスは「ライフ」誌に掲載された数々の「フォトグラフィック・エッセイ」で有名になるが、酒びたりの隠遁者となっていた。別の仕事をしていたスミスは、情熱的な日本人翻訳者のアイリーンから、水俣を訪れて水俣病を撮影・記録するよう促される。スミスは、地元の警察や政府の共犯者である企業の貪欲さがもたらす破壊的な影響の正体を暴くために最善を尽くすことをついに確信する。水銀中毒と水俣病による沿岸地域の被害を記録するために、彼は日本の水俣を訪れた。水俣病は、化学会社チッソが引き起こした産業公害が原因であった。ミノルタのカメラだけを持って強大な企業に立ち向かい、スミスは壊れたコミュニティの信頼を得て、この物語を世界に伝えるための画像を見つけなければならない。しかし、スミスは現地で厳しい報復を受けることになるが、この報道によって、彼はフォトジャーナリズムの象徴となる。

14	あなたは大丈夫？考えよう！デートDV	29分		デートDVは、大人だけでなく中学生や高校生といった若者にとっても、非常に身近で、深刻な問題です。パートナー間の日常的なやり取りが、場合によっては、犯罪に当たる又は犯罪に発展する可能性のある行為となることもあります。その場合、暴力を受けたその被害者は心身に大きな傷を受けることとなります。また、デートDVは、被害者が一人で抱え込んでしまうケースが多く、当人同士だけでは解決することが困難な問題であるといえます。本動画は、若者がデートDVに関する正しい知識を身に付け、被害者にも加害者にもならず、パートナーと対等な関係を築いていくためにはどうすればよいかを考えるための教材となっています。
15	夕焼け	35分	2022	この物語の主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族であるのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、小学校時代の担任であり元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気かけ、人と人がつながっていくことが、ケアラーとその家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。

16	あなたの笑顔がくれたもの	37分	2022	「人権」は日常の何気ない人と人との関係性の中にもあります。しかしながら、普段そのことを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの近く親しい関係性においては、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまうことがあります。主人公の麻友子は、発達障害である幼馴染の紗希、オストメイト（人工肛門保有者）の女子高生美織、祖母の介護をしている桃田、それぞれ周りからは見えにくい生きづらさを抱えている3人との関わり合いによって、自分の思い込みに気づき、変わる決意をします。外見で決めつけたり、「障害者」や「ヤングケアラー」などカテゴリーで人を判断したりせず、一人一人が考えや感じ方も違う人間であるということを理解して向き合うことの大切さをこのドラマを通して学んでいくことができます。職場や家庭内で「人権」について話し合うきっかけとしてお役立てください。
17	大切なひと	34分	2023	【テーマ】「ネット社会における部落差別と人権～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～」 【作品内容】この物語の主人公・愛依は、学友の大哉がインターネットに投稿する動画が、被差別部落について差別的であることに気づきながらも言い出せずにいました。幼少期に可愛がってもらった綾女の住居が動画内において差別を助長する内容で晒されたことをきっかけに、愛依は動画を削除するよう告げ、過去に綾女にしてしまった差別につながるような自らの過ちとも向き合います。現代社会におけるインターネットは利便性が高く、SNSや動画投稿サイトなどを通して自由に意見表明することができるのが特徴です。一方で、インターネット上では他者からの評価が自身の評価と誤認し、部落差別・外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信する行為がみられます。ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることがあり、現在深刻な人権問題となっています。インターネット上の一部の情報が、誤った認識や差別意識を助長すること、表現の自由を逸脱した許されない行為であると感じる大切さ、差別されている当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。

18	あなたは大丈夫？考えよう！いじめ ～一人で悩まず相談しよう～	28分	2024	令和4年度の学校のいじめの件数が、これまでで最も多くなっています。最近のいじめは、SNSなどのインターネット上で行われることもあり、学校の先生や親など、周りから見えにくくなっています。また、ささいなきっかけから、重大ないじめにつながることもあります。この動画は、いじめをなくすためにどうすればよいか、周りの大人にSOSを出すにはどうすればよいか、悩んだときにどこに相談すればよいかを一緒に学んでいく教材となっています。
19	考えよう！ 児童虐待	32分	2024	近年、全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は一貫して増加し、令和4年度には約22万件と過去最多になっています。こどもの生命にかかわる重大な児童虐待事件も後を絶たず、児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき喫緊の課題です。このようなこどもを取り巻く深刻な状況を改善するため、児童虐待防止に関する正しい知識を身に付けるための動画を製作しました。